

## 知見の概要

下記は、各章の知見の概要である。各章のページ数を併せて記載しているので、特に関心の高いテーマ、内容については、是非当該ページを開いて、読み進めていただきたい。

### 第1章 予期せぬ困難を乗り越えるためにキャリア教育で何ができるか（13-17 ページ）

- ・ 相談機関の情報提供を受けていない、あるいは受けたかどうかを覚えていない卒業生は、学んだり働いたりすることが困難になった際に、公的機関を活用しようとする者が少なく、解決方法がわからなかったり、一人で問題を解決しようとしたりする者が多い傾向にある。
- ・ 人生上の諸リスクへの対応に関する学習に取り組んでいない、あるいは取り組んでも役立たなかったと感じている卒業生も、同様の傾向にある。
- ・ ゆえに、「人生上の諸リスクに遭遇したときの対処法」に関する教育を充実させ、相談機関について積極的に情報提供することは、問題を解決するために「公的機関を活用する」者を増加させ、「1人で問題解決しようとする」「解決のための方法を知らない」者を減少させることにつながる可能性がある。

### 第2章 「学校から提供された情報」の効果と評価（18-23 ページ）

- ・ 高等学校卒業後に「学んだり働いたりすることが困難な問題」が生じた際に、相談できる公的機関を知っているのは高等学校卒業生のうちおよそ2割。
- ・ 高等学校での情報提供を受け取っている者の中では、「問題を解決するための相談や支援に関する公的な機関を知っている」割合が高くなる。
- ・ 「進学にかかる費用や奨学金についての情報」「社会全体のグローバル化(国際化)の動向」「男女共同参画社会の重要性」などについては、高等学校のときの学習が「役に立った」と考える者は、在学時に指導がもっとあれば良かったと考える傾向にある。

### 第3章 職業生活上の困難を乗り越えるための知識は誰に届いていないのか（24-29 ページ）

- ・ 普通科出身者は、職業に関する専門学科や総合学科の出身者に比べて、職業生活上の困難を乗り越えるための知識を学習しないまま高等学校を卒業する者が多い傾向にある。
- ・ 一方で、職業生活に関する各相談機関については、公共職業安定所（ハローワーク）を除いては、どの学科の出身者もほとんど情報提供を受けていない。
- ・ 職業生活上で困難が起こったときに相談機関を活用するという意志をもつ者も、どの出身学科においても圧倒的少数である。

### 第4章 小学校で「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を育てるには（33-38 ページ）

- ・ 小学校のキャリア教育では「課題対応能力」と「キャリアプランニング能力」の育成に向けた指導に重点が置かれにくい。
- ・ これらの指導が不十分になりがちな理由としては、教員たちがキャリア教育に関する指導の方法や内容についてどうしたらいいかわからないという点がある。

- ・そして、これらの指導を充実させるには、校内外の研修や授業研究会への参加が有効であることがうかがえるため、これらに参加できるような仕組みを整えることが重要である。

#### 第5章 キャリア教育における「卒業生の体験発表会」の意義（39-43 ページ）

- ・「卒業生の体験発表会」を実施している中学校は3割にとどまるが、26.7%の卒業生（第2位）が実施してほしかったと回答している。
- ・「卒業生の体験発表会」の意義は、同じ学校出身の先輩との交流を通して、生きた情報に触れ、自分の進路について考えることにある。
- ・卒業生は「卒業生の体験発表会」において、特に「高等学校など上級学校の教育内容や特色」、「卒業後の進路（進学や就職）についての相談の方法や内容」「高等学校などの上級学校や企業への合格・採用の可能性」などを知りたいと考えている。

#### 第6章 インターンシップにおける事前指導・事後指導の影響（44-49 ページ）

- ・インターンシップ経験は生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに寄与する。
- ・事前指導については、「就業体験の目的を確認するための指導」が多く行われており61.8%であった。事後指導については、「報告書・レポートの作成」が最も多く、70.6%であった。教科と関連付けた指導は行われていない。
- ・インターンシップ経験が生徒の基礎的・汎用的能力を高めることに対して、事前指導・事後指導が関連を持つことがうかがわれる。
- ・事前指導・事後指導が、その学校で行うインターンシップにとって必要な取組になっているかという視点から点検し、重点化を図ることが重要である。

#### 第7章 高等学校における基礎的・汎用的能力と生徒の学習意欲（50-56 ページ）

- ・「基礎的・汎用的能力」が高い生徒は、「学習意欲」が高い。より厳密には、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、約15ポイント～約20ポイント以上の差で「家での学習に積極的に取り組んでいる」。
- ・「学習意欲」が最も低下する2年生前半の時期であっても、「基礎的・汎用的能力」の自己評価が高い生徒は低い生徒よりも、「家での学習に積極的に取り組んでいる」の項目に「あてはまる」と答える割合が約8倍～約10倍高い。

#### 第8章 「キャリアプランニング能力」とキャリア教育諸活動との関連（57-63 ページ）

- ・キャリアプランニング能力を身に付ける者の割合は高等学校生活の進行とともに高まり、高等学校生活に関する意識・態度の高まりとも関わっている。
- ・一方、個人に着目すると、「職業や働き方を選ぶ際に、どのように情報を調べればよいかわかっている」に対する答えは、調査時期によって揺れ動いている。
- ・「キャリアプラン等の作成」「上級学校の教員や社会人講師による出張授業・講演会」「卒業生による講演・体験発表会・懇談会」は、第1学年で行われると「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。「キャリア・ポートフォリオの作成・活用」は学年を通して、また特に第3学年において「職業・働き方についての情報源の理解」に寄与する。